

6/14 (金) 搬入予定・新刊指定締切 6/3 (月) | 産学社

地震列島の原発がこの国を滅ぼす

「棄民国家」を変えるには、原発の全面廃絶しかない！

四六判・並製、296 ページ 定価 (本体 1,700 円+税)
 小出 裕章 (原子力工学者)・著
 ISBN978-4-7825-3593-6 C1036

2024 年元日に起きた「能登半島大地震」。海岸沿いの隆起は 4 メートルにも及び、志賀原発が稼働していたら「福島第一原発事故」以上の被害も予想された。世界の地震の 18% が日本列島で起きているという現実のなかで、果たして原発は必要なのか？
 その本質は巨大利権と核兵器を得ようとする原子力マフィア！
 政治家、官僚、原子力産業、司法、マスコミが一体となった巨大権力が原発ビジネスと国民を支配している構造に反骨の原子力学者が、「NO！」を突きつける。

【内容構成】

- 第 1 章 危険極まりない、活断層の上の原発大国
- 第 2 章 福島第一原発事故は、国と東電による「人災」
- 第 3 章 放射能汚染水を、海洋に放出してはいけない
- 第 4 章 原発と核兵器は繋がっている
- 第 5 章 エネルギーをできるだけ使わない生活

【著者プロフィール】

小出 裕章 (こいで・ひろあき)
 1949年、東京生まれ。工学者 (原子核工学)。元京都大学原子炉実験所助教。
 1968年、原子力の平和利用に夢を抱いて、東北大学工学部原子核工学科に入学。
 1970年、女川原子力発電所(宮城県)建設反対の集会に参加したことをきっかけに、
 原発をやめさせるために原子力の研究を続けることを決意。原子炉実験所に勤務しながら、
 原発反対の立場から、さまざまな提言、提案を行い続ける。専門は放射線計測、
 原子力安全。2015年3月、京都大学原子炉実験所を定年退職し、長野県松本に移住。
 太陽エネルギーを活用する暮らしを実践中。今も原発や憲法についての講演に、
 全国に足を運ぶ。主な著書に、『原発はいらない』『この国は原発事故から何を学んだのか』
 (いずれも幻冬舎ルネッサンス新書)、『原発と戦争を推し進める愚かな国、日本』
 『原発事故は終わっていない』(いずれも毎日新聞出版)、『「最悪」の核施設六ヶ所再処理工場』
 (共著、集英社新書)などがある。

新刊注文書 (新刊委託)	貴店印	小出 裕章・著	(株)産学社
	地震列島の原発がこの国を滅ぼす ISBN978-4-7825-3593-6 C1036 定価 (本体1,700 円+税)		
	様	冊	

(株)産学社 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 3-10 宝栄ビル
 TEL 03-6272-9313 e-mail:eigyo@sangakusha.jp

ご注文はFAXでも承ります。

FAX 03-3515-3660